

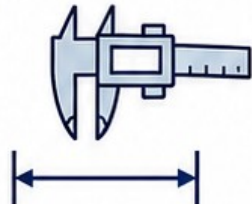
材料取りで失敗しないための確認ポイント

切る前の確認で、作り直しを防ぐ

材料取りは“切る前”が勝負

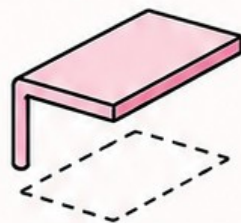
1 寸法を間違えない

- 図面寸法をよく確認する
- 数字の見間違い、mmの打ち間違いに注意



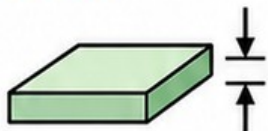
7 曲げ物は展開寸法を確認する

- 外寸そのまま切ると合わないことがある
- 曲げR、板厚、曲げ回数を確認する



2 板厚を考えて計算する

- 内寸・外寸を確認する
- 板厚分を考えずに切ると合わなくなる



8 基準面・表裏・向きを決める

- 穴位置、切欠き、曲げ方向のある部品は特に注意



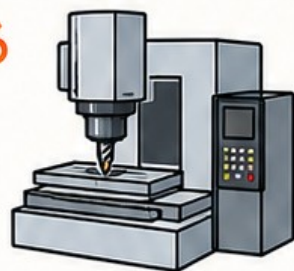
3 縮み代を確認する

- 溶接すると材料は縮む
- 長物は特に注意



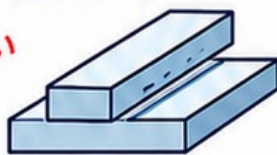
9 仕上げ代を考える

- 後加工がある部品は仕上げ代を残す
- 完成寸法ピッタリで切らない



4 長い部品から材料取りする

- 長い材料は後から取れない
- 短い部品は端材で取れることが多い



10 切った後に部品番号を書く

- 部品番号、寸法、数量を書いて取り違えを防ぐ

部品番号
寸法
数量



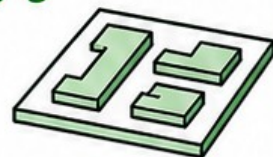
5 材質・板厚・数量を最初に確認する

- 寸法が合っても材質違い、板厚違い、数量違いではやり直しになる



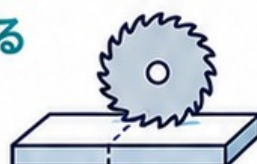
11 端材を使えるか確認する

- 短い部品は端材で取れるか確認する
- 材料ロスを減らす



6 切断代・刃厚を考える

- 切断には切りしろが出る
- ギリギリで取らない



12 切る前に最終確認する

- | | | |
|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|
| ☐ 寸法 | ☐ 数量 | ☐ 材質 |
| ☐ 板厚 | ☐ 縮み代 | ☐ 切断代 |



★ 最初の確認ミスが、材料ロス・寸法不良・作り直しにつながる。
慌てず、切る前に必ず確認する。